

八頭町教育委員会事務局
学校教育課 課長補佐兼指導主事
西田 彰訓 様



【連携内容】

- 2016年度 八頭町立隼小学校
・課外授業としてプログラミング体験を提供
- 2017年度 八頭町立小学校(船岡小学校、郡家西小学校)
・クラブ活動として実施
- 2018年度 八頭町立小学校全4校
・クラブ活動として実施
- 2019年度 八頭町立小学校全4校
・クラブ活動として実施
・6年生プログラミング授業実施のサポート

先生主体でプログラミング授業が可能になった事が大きな成果

当初、「プログラミングを授業に取り入れることは難しい」という意見が多く出ていました。しかし、4年間の連携を通じ、全4校での授業実施を実現できました。

初めは課外活動、次にクラブ活動、そして最後に全学校での授業実施という形で、ゆっくりと学校に浸透させられたため、先生方も受け入れやすかったようです。結果的に、八頭町内の先生方がプログラミングを認知し、意識されるようになりました。

今回TIA Kidsには、3つのサポートを依頼しました。

- ・先生が進行できるプログラミング授業の提案
- ・実施までの先生への研修及び当日のサポート
- ・八頭町内全4校でのプログラミング授業の実施

特に、先生が主体となって授業を行えたので、先生の中で実施イメージが持てたことが成果でした。この点は、情報主任の先生など特化した先生だけではなく、担当外の先生でも実施できるようサポートして下さいました。



今回6年生での実施を受け、4、5年生での実施検討も行いやすくなりました。各校の先生が実施したことで、プログラミング授業のイメージがより具体的になったためです。

授業力のある先生がポイント(考える、表現する、共有するなど)を押さえた授業を行うことで、他の先生にも展開しやすくなると実感しました。

さらに、実施のためにICT活用能力(今回の場合はパソコンやフォルダの操作理解)を他の教科と組み合わせることで段階的に養う重要性にも気づけました。

今回の連携がなければ先生主体での全4校授業実施はできなかつたと感じています。

各先生が授業を実施するためのサポート環境を提供し、他の先生は実際に授業を見て自分ならどうするかを考えることが、授業の実施、展開のためには重要となります。

IT利活用の目的や、方法を考える事が学びの機会

プログラミングを体験することで、元々機器に興味のない子どもも興味を持つようになりました。

ICT機器をただ娯楽や息抜きだけに使うのではなく、活用方法を考えるということです。

目的を設定し、論理的に考えたり、作ったりという“子どもにとって意味のある活動”をすることがとても大切です。子どもたちを“不適切な使い方はだめだ”と制限するだけでなく、目的のある使い方を体験できる機会を提供していく必要もあると考えます。



プログラミング教育とは「思考の整理」を身につけるきっかけ作り

学校では、支援学級の子どもたちにはこれまでも“順序だてて行う学び”を実施しています。今思えばこれも一つのプログラミング的思考(論理的思考)を養う教育です。

現場では大きく意識されていませんでしたが、すでに一部で取り入れられていたということです。



日頃の授業にもプログラミング的思考を積極的に取り入れ、思考を整理し、順序だてて考える力を意識的に養うことが大切です。それが、今広がりつつあるプログラミング教育です。

プログラミングされたものは、自分たちの身の周りに必ずありますが、子どもたちは意識していません。日頃の学びに加え、手順と目的を意識したプログラミング体験をすることで、身の周りのものの仕組みを考えたり、見通しを持ったりすることの大切さに気付くことができます。

そのような能力が、将来的に他の科目やプレゼンテーション等において、“思考の整理”として成果が見えてくると考えています。まずは、このきっかけを作ってあげることがとても重要なのだと感じます。